

一人でやらない、一人にさせない。



綾部市

内田 美乃理 さん

福知山で生まれ育ち、中学・高校の頃から子どもの虐待を防ぎたいという想いを懐き、保健師となった。大阪の大学を卒業後、綾部の土地柄、人々の雰囲気惹かれ、綾部の保健師となり、現在5年目、すでに中堅保健師として日々奮闘中である。

綾部市の保健推進課に所属し、主な業務として、特定健診、肝炎ウイルス検診、耳鼻科検診、健康まつり等の運営を行っている。最近では、特定健診の受診率が伸び悩んでいることから受診率向上を課題として、アポなしで訪問に行くなど受診勧奨に力を入れている。「馴れ馴れしくなり過ぎないようにして、親しみを持ってもらいたいですね。」

相手とコミュニケーションをとる際には目線の高さを合わせたり、方言を使ったりとより親しみを持ってもらえるような工夫をしている。保健指導などでは、まずは相手との距離を縮める話題から入り、信頼関係を作った上で本題へ進むように心がけている。また、訪問の時間をより確保するために事務作業の効率化が必要である。事務作業の質が向上すると保健師の仕事の幅が広がることにつながるため、学ぶ努力は怠らないようにしている。「何でも話せる職場環境に恵まれ、自分の仕事のことは些細なことでもみんなに話して、一人でやらないよう心がけています。」

新人の頃はなかなか話すことができなくて苦労したという。自分のやっている仕事を仲間話することで、一人で抱え込むしんどさは大きく軽減され、また情報共有することで仕事がより円滑になったという。

「保健師の仕事好きですね。住民さんと話しながら一緒に解決の糸口を探せることにやりがいを感じます。」

なりたと思ってなった保健師。その理想はどんなに忙しくても地域に出ていく保健師。そして、様々な問題を抱え、孤立してしまいそうな住民に社会資源等どこかと関わりを持ってもらう、住民を一人にさせないような活動が目標だ。これからも理想の保健師になるべく広い視野を持って学びながら、積極的に住民を訪問し支援していきたいと語った。